歴史の道をゆく

the history of road

阿仁街道 ②

大覚野峠で仙北郡から北秋田郡に入った阿仁街道は、阿仁川支流の赤倉沢沿いに下り比立内に向かう。兵治沢との合流点より少し手前の道筋に赤倉神社があったが、昭和49年の国道105号開通に伴い、国道の東側脇に移された。

赤倉神社は寛文年間（1661～1673）に建立され、街道を経由して交流する阿仁側と桧木内側の人々を見守ってきた。両地域の間のエピソードや"恋物語"も数多く伝えられているという。現在地に移ったのが少なくとも3回目の移転という赤倉神社。今も毎年6月24日に祭礼が行われている。

街道は主に川の左岸近くを通り、何度か徒渉や丸木橋で流れを行き来していたらしい。比立内の集落手前、旧国道に架かる牛滝橋付近の比立内川には舟着場があった。橋の下手の崖の肩に、かつて舟をつないだという大ケヤキが残っている。

阿仁街道・比立内における渡し場は、正確な位置は特定できないが、牛滝橋の上流側から渡り、橋の下を通る道筋で集落に上がって行ったと考えるのが自然なように思われる。

比立内神社には、町指定文化財の「鰐口」がある。街道は神社前の道ではなく、その一本東側を通っていた。集落の外れで左折し、国道に沿って道なりに進む。笑内に入る鳥坂橋の手前右手に「いも神様」、秋田内陸線・笑内駅の手前左手に庚申塔や山神社がある。

阿仁街道筋ではないが、笑内駅のすぐ先を左に入れば根子地区への出入り口である。阿仁マタギの代表的な集落の一つ根子。昭和50年に根子トンネル（575・8メートル）が出来るまでは、山越えの道を遠回りするほかない「隔絶された村」だった。

根刈岳などの山々を背に忽然と姿を現す山間盆地の集落風景は、かつてここが"隠れ里"さながらの世界だっただろうことを今も彷彿とさせてくれる。トンネル完成を祝う記念碑には、「トンネルによって根子は点から線の集落に変貌した」との言葉。まさに村の人々や関係者の実感だったろう。

⑤

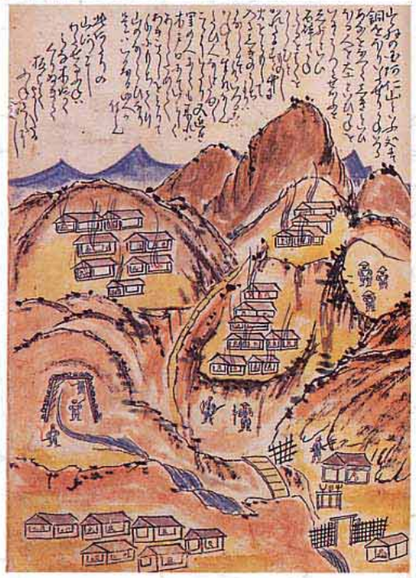
①

⑥

②

⑦

④



⑧

③

この地図は、建設省国土地理院長の承認を得て、同院発行の1/200,000地勢図を複製したものです。（承認番号 平12東複第363号）

街道に引き返して北進。萱草大橋付近のルートは現国道とも旧国道とも違うが、今の橋の辺りで阿仁川を渡っていたようだ。舟渡しだったことを示す記録や地名などの痕跡が無いらしいから、徒渡りだったろうか。

萱草地区に入ると、集落内の旧道が阿仁街道である。集落の外れ右手に猿田彦大神、月山・羽黒山碑、相染神社などがある。

その後ルートはいったん秋田内陸線の西に出てすぐ東に戻り、曲折を繰り返しながら荒瀬の手前で現道と合流。約500メートル先で再び右に分かれ、荒瀬集落内を通る。萱草から荒瀬にかけての道筋には猿田彦大神が多い。

荒瀬集落を経て新道を横断、畑町地区・上畑町バス停の手前右手に「十歩一御番所跡」の標柱がある。江戸時代、阿仁鉱山に入る物資から一割手数料を徴収していたという。

秋田内陸線・阿仁合駅の裏手が、水無の舟着場跡。かつて「銀山町」とも呼ばれた水無地区は阿仁鉱山への入口にあたり、米代川・阿仁川舟運の溯航終点がこの舟着場だった。河川ルートによる阿仁鉱山への補給物資と鉱山からの粗銅（あらがね）は、ここで荷揚げされ積み出されたのである。

角館から水無までの街道は舟運輸送を背後から補う陸送ルートとして整備されたが、本来の阿仁街道は小繋（二ツ井町）・坊沢（鷹巣町）と水無の間のみを指していたようだ。

現在、水無の舟着場跡一帯は河川公園になっている。大量に野積みされたままの「カラミ」は、往時の活況ぶりを物語る格好の史料といえよう。砕いた鉱石を炉で溶かし、銅と不純物に分けた後のカス（鉱滓）がカラミ。角形に固めたカラミは家の土台や石垣、階段などに利用され、今も町の随所で見ることができる鉱山町ならではの風景だ。

舟着場の近く（阿仁合駅の並び）には、明治初期にドイツ人鉱山技師のために建てられた阿仁異人館（国指定重要文化財）や、阿仁鉱山などの資料を展示する伝承館がある。

①赤倉神社（阿仁町赤倉沢）
国道105号の大覚野峠から2キロメートルほど阿仁町側にあり、赤倉沢と兵治沢の出合う付近。国道の脇に建つ。

②比立内渡し場跡（阿仁町比立内牛滝）
旧国道105号に架かる牛滝橋と比立内川。川幅およそ20メートル。このすぐ下流で打当川と合流し阿仁川となる。

③鳥坂のいも神様（阿仁町鳥坂）
寛文年間（1661～73）に阿仁地方で大流行した天然痘を治めようと、紫芋の形をした石を祀りあがめた。

④根子集落（阿仁町根子）
根子トンネルを通り抜けると忽然と眼下に現れる。1月8月に奉納される根子番楽は県指定無形民俗文化財。

⑤十歩一御番所跡（阿仁町銀山畑町）
享保年間（1716～36）には銅の産出量が日本一だった阿仁銅山に運ばれる物資から通行税を徴収した。

⑥阿仁銅山のカラミ（阿仁町銀山）
阿仁町役場裏の水無舟着場跡に野積みされており、粒状のカラミが崩れないように角形カラミで抑えている。

⑦旧阿仁鉱山外国人官舎（阿仁町銀山）
通称異人館。明治25年（1882）阿仁鉱山に招いたドイツ人技師のために建設された県内に残る最古の洋館。

⑧出羽国阿仁山（大館市立中央図書館蔵）
江戸時代、各地を旅し記録を残した菅江真澄の粉本稿に描かれた天明5年（1785）の阿仁銅山の様子。